

令和3年度 学校評価実施報告書

幼稚園名（中京もえぎ幼稚園）

教育目標

たくましく心豊かな子どもの育成

～主体的に環境にかかわり、好奇心・探求心豊かに夢中になって遊ぶ子どもの育成をめざして～

年度末の最終評価

自己評価	教育目標の達成状況、次年度に向けた見直し 子どもの姿から、今年度は体の動かして遊ぶ姿を通して子どもたちのねがいや育ちを見てきた。多様な体の動きを経験したり体を動かして遊ぶことを楽しめるように園環境の創出に取り組み、保育を見直してきたところ、興味のある遊びから主体的に環境にかかわる姿が見られ、新しい環境にも進んで挑戦しようとする気持ちが育まれたり、規範意識の芽生えや自立心が育まれる姿が見られた。また、イメージを広げて遊ぶ中で、工夫したり試したり、関心を広げて遊び、好奇心をもって遊ぶ姿がみられるよう変容した。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策 コロナ禍で計画していた行事を行うことも難しく、大人にとって残念に思うこともあるだろう。また、感染症対策として長時間対面で話ができないので、園と保護者とが子どもの様子や育ちを共有することに苦労もあったと思う。日々の保育の中で子どもにとって大事な経験ができるよう工夫して取り組んだりして、子どもたちは、その状況の中で確実に成長ししっかりと育ちが見られていると感じる。

学校関係者評価の評価日・評価者

	評価日	評価者
中間評価	10月22日	学校運営協議会 もえぎティンクル理事
最終評価	3月11日	学校運営協議会 もえぎティンクル理事

(1) 幼稚園教育（保育の改善・充実）について

具体的な取組

- 心を動かすことと体を動かして遊ぶことの関連性を調査する。
- 体を動かして遊ぶことを楽しめるように、園庭や園舎の環境の現状把握と課題を調査し再整備する。
- 近隣環境の調査を行い、保育に活用する。
- 園庭の環境をマップにして、その変遷を記録し、振り返ることができるようとする。
- 研究の成果や過程を保護者など内外に定期的に発信する。

(取組結果を検証する) 各種指標

- 毎日の振り返りや子どもの姿の変容、エピソード検討
- 園舎、園庭の環境の現状把握と改善状況
- 園庭環境マップの作成と変遷状況
- アンケート「お子さんは、体を動かすことが好きですか」

「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」

中間評価

各種指標結果

- ・毎日の振り返りや日々の子どもの姿の変容から、心を動かすことと体を動かして遊ぶことの関連性について意見を交わすことができた。
- ・園舎、園庭の環境の現状把握と改善状況については、子どもが様々な動きを楽しみ体を動かして遊ぶための環境整備や園内でどのような動きを子どもが経験しているのかなどの見直しができ、課題について改善を進められた。
- ・園舎環境マップの作成については、話し合う時間を捻出し子どもの姿から保育環境を園全体で見直し再構成したり、新しく創出することができていた。
- ・アンケート結果「お子さんは、体を動かすことが好きですか」大変そう思う・そう思う回答 97%
「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」大変そう思う・そう思う回答 92%

自己評価

分析（成果と課題）

- ・日々の子どもの姿から、子どもの実態や興味関心に沿った園舎環境マップの作成や新しい園環境の創出に取り組んできた。結果、園舎や園庭で子どもたちの体の動きがこれまでより多様になり、進んで体を動かす遊びを楽しむ姿が見られ、意欲やめあてをもち遊ぶが見られるようになった。また、園内だけでなく、広い竹間公園も活用し、子どもが存分に体を動かす経験ができた。楽しんで体を動かして遊ぶことを通して他児への関心が広がったり、気持ちを調節する力も育まれてきたりする姿が見られる。引き続き取り組んでいきたい。
- ・アンケート「家庭で、意識して体を動かす遊びをとりいれていますか」の保護者評価結果が低かった。コロナ禍で外に出にくい状況があったり、住居環境から難しい現状もみられた。幼児期に体を動かす経験の重要性を発信し家庭と連携しながら、家庭だけでは難しいことも踏まえ、園で子どもが体を動かす経験ができるように取組んでいきたい。

分析を踏まえた取組の改善

- ・園の取組について、子どもの育ちや遊びの様子から保護者への発信の工夫を引き継ぎ行っていく。
- ・園舎環境マップの作成に継続して取り組んでいく。

（最終評価に向けた）取組の改善を検証する各種指標

- ・毎日の振り返りや子どもの姿の変容、エピソード検討
- ・園舎、園庭の環境の現状把握と改善状況
- ・園庭環境マップの作成と変遷状況
- ・アンケート 前期評価結果との比較「お子さんは、体を動かすことが好きですか」
「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・竹間公園など地域の環境を活かし、子どもが園で引き続き体を十分に動かせる経験ができるように取り組んでいってほしい。

最終評価

（中間評価時に設定した）各種指標結果

- ・日々の保育後の話合いやエピソードを通しての研修の中で、子どもの姿の変容をとらえ、子どもの内面の心の動きと体の動きの関連性について意見交換することができた。

- ・毎月、子どもの遊びの姿を基に子どもが園内でどのような体の動きを経験しているのか、さらに子どもが心を動かし体を動かす経験できるのか、園舎内や園庭の環境を見直し環境を創造していくことをすすめられた。
- ・毎月、継続して園庭環境マップを作成することで、年間を通して園庭での子どもの姿を共有したりや環境を意識して創出していくことができた。
- ・アンケート 前期評価結果との比較「お子さんは、体を動かすことが好きですか」大変そう思う・そう思う回答 99% 「お子さんは、体力がついてきたと思いますか」大変そう思う・そう思う回答 95%

自己評価	分析（成果と課題）
	<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して取り組んできたことで、子どもの姿に変容が見られる。子どもの姿をもとに毎月、教員間で話しあい環境を見直したり、新たな環境を設定したことできこれまでにない体の動きを引き出すことにつながり、進んで挑戦しようとする姿が増えた。また、広い竹間公園の活用についても見直し、子どもたちの力が発揮できるよう遊びの進め方や場の使い方を見直すことができた。友達と一緒に体を動かして遊ぶなかで、意欲やめあてがより高まり、規範意識の芽生えが育まれたり、自己の感情を調整する力や自分の思いを言葉で伝え合う力、友達を互いに認め合う姿など、子どもの姿に変容が見られた。今後も引き続き、家庭との連携や家庭への発信、啓発などに取り組んでいきたい。 ・子どもの育ちや遊びの様子についての保護者への発信については、毎月の学級だよりを作成したり、メール配信の活用など発信の工夫に取り組んだ。
学校関係者評価	分析を踏まえた取組の改善
	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿を発信する学級だよりを作成したり、コロナ禍での発信の工夫の一つとして日々の様子をメール配信することにも取り組むよう改善したが、引き続き、園の取組について、子どもの育ちや遊びの様子から保護者への発信の工夫をしていきたい。 ・今後も子どもの育ちを発信する力量を高めていきたい。
学校関係者評価	学校関係者による意見・支援策

(2) 幼小連携・接続に関して

具体的な取組
<ul style="list-style-type: none"> ・「学びに向かう力」等、幼児期に育みたい資質能力について園内で話し合い、個人差に留意しつつ、各年齢において発達を意識して指導を積み重ねると共に、学びと育ちを繋いでいく。 ・具体的な子どもの姿を通して、接続期カリキュラムの検証、改善等を行う。 ・幼稚園の取組を近隣小学校に積極的に発信し、伝えていくと共に、各々の教育内容の違いや共通点について学ぶ。
(取組結果を検証する) 各種指標
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿の変容やエピソード検討 ・接続期カリキュラムの検証・改善状況 ・近隣小学校への発信状況 ・アンケート「小学校との連携や交流をすることは子供の育ちにつながっていますか」

中間評価

自己評価	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児期にはぐくみたい資質能力については、日々の保育を通して園内で意見交換や話合い、各年齢の発達を意識して取り組めた。・小学校への発信状況については課題。・アンケート「小学校との連携や交流をすることは子供の育ちにつながっていますか」大変そう思う・そう思う回答 67%
	<p>分析(成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none">・幼児期にはぐくみたい資質能力については、日々の保育や具体的な姿を通して各年齢の発達について意見交換や話合いをし、それぞれの発達に必要な経験ができるように努めてきた。引き続き取り組んでいきたい。・コロナ禍で直接小学校と交流することは難しかったが、今後、後期にオンラインやビデオを通して交流する計画をたてている。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none">・引き続き継続して、日々の保育を通して園内での意見交換や話合いの時間を捻り出していく。・後期にオンラインやビデオを通しての交流や連携を計画している。今後、取り組んだことを発信していく。・小学校への発信についても後期に取り組んでいく。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none">・子どもの姿の変容やエピソード検討・接続期カリキュラムの検証・改善状況・近隣小学校への発信状況・アンケート 前期評価結果との比較「小学校との連携や交流をすることは子供の育ちにつながっていますか」
最終評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none">・園内での子どもの姿の変容やエピソード検討については、行うことができた。・接続期カリキュラムの検証・改善状況については課題も残った。・近隣小学校への発信状況についても課題が残った。・アンケート 前期評価結果との比較「小学校との連携や交流をすることは子供の育ちにつながっていますか」大変そう思う・そう思う回答 95%
自己評価	<p>分析(成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none">・小学校との幼小交流の計画や打合せはしていたが、コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、実施はできなかった。しかし、3月には5歳児に向けて、1年生からの学校生活を紹介するビデオを見たことで、小学校生活への期待を膨らませている姿が見られた。今後も小学校と連携して、工夫して取り組めることを考えていきたい。

	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・感染状況を踏まえつつ、教員同士交流し、近隣小学校に積極的に幼稚園の取組を発信し、伝えていくと共に、各々の教育内容の違いや共通点について学ぶ。
学校 関係 者 評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが小学校へ就学することをとても楽しみにしている姿が見られる。交流が難しい中、そのように子どもが不安を持たない姿を見ると幼小連携への幼稚園の取組がわかる。

(3) 預かり保育に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の交流・預かり保育ならではの活動が取り入れられるよう工夫し、参加人数や子どもの実態にあつたものにしていく。 ・担任と預かり保育担当教員が連絡を密にし、子どもの心身の負担に配慮しながら、保育を進める。 ・保護者との連携を密にし、保護者同士のかかわりについて配慮する。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育での日々の振り返りと指導計画の見直し ・担任と預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り ・アンケート「預かり保育は保護者の子育て支援、就労支援につながっていますか」 「預かり保育で異年齢との交流やいろいろな友達とのかかわりを楽しんでいますか」

中間評価

	<p>各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異年齢で交流する姿や遊びの刺激を受けて過ごしている姿も多くみられる。参加人数や子どもの実態に合うようさらに考案していくとともに、預かり保育ならではの活動が取り入れられるよう工夫していく。 ・担任との預かり保育担当教員との連携については、日々、子どもの姿を伝達し共有したり、意見交換をしたりして取り組んでいる。引き続き取り組んでいきたい。 ・アンケート「預かり保育は保護者の子育て支援、就労支援につながっていますか」大変そう思う・そう思う回答 98%、「預かり保育で異年齢との交流やいろいろな友達とのかかわりを楽しんでいますか」 大変そう思う・そう思う回答 82%
自己 評価	<p>分析 (成果と課題)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育では参加人数や利用時間の延長が増加傾向にある。担当教員だけでなく、園全体で連携をとり協力体制で進めていく必要がある。今後も連携を密にとり、進めていきたい。 ・アンケート「預かり保育は保護者の子育て支援、就労支援につながっていますか」では、98%と高い評価結果が見られた。また、保護者からも預かり保育があることで生活が成り立つので助かるなどの意見も聞かれた。保護者の子育て支援や就労支援につながっていることが把握できた。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・後期も、担当教員だけでなく、園全体で連携をとり協力体制で進めていく。日々、子どもの姿を共有し、教職員間で連携を密にとり、進めていきたい。 ・新たな遊びを提案したり、子どもの遊びの様子を見て玩具や遊びなどの内容についても引き続き工

	<p>夫していきたい。</p> <p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育での日々の振り返りと指導計画の見直し ・担任と預かり保育担当教員との連携状況や聞き取り ・アンケート 前期評価結果との比較「預かり保育は保護者の子育て支援, 就労支援につながっていますか」「預かり保育で異年齢との交流やいろいろな友達とのかかわりを楽しんでいますか」
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育を利用される方が増えてきたというのは、園が預かり保育をしていることが、周知されてきているのだと思う。多くの方に知ってもらえるよう、続けて発信に取り組んでいってほしい。
最終評価	
	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育では、子どもの姿から新しい遊びを提案したり、取り入れたりしたことで刺激となり遊びを進める姿が見られる。時期や子どもの実態にあうよう、工夫していくことが今後も必要である。 ・担任と預かり保育担当教員との連携面については、子どもの姿を互いに伝え合い以前よりも連携が進んできつつある。引き続き取り組んでいきたい。 ・アンケート 前期評価結果との比較「預かり保育は保護者の子育て支援, 就労支援につながっていますか」大変そう思う・そう思う回答 98% 「預かり保育で異年齢との交流やいろいろな友達とのかかわりを楽しんでいますか」大変そう思う・そう思う回答 88%
自己 評 価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの実態から新しい遊びを提案したり、取り入れたりすることで子どもの姿の変容が見られた。また、遊びの環境や場の設定を見直すことができた。子どもの実態にあう環境を設定していくことが必要である。引き続き、子どもの姿をみとり、環境設定をしていく。 ・連携面では以前より進んできているが、預かり保育での子どもの姿については今後も担当教員だけでなく、園全体で連携をとり協力体制で進めていく必要がある。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの姿について、園全体で連携をとり協力体制で進めていく必要がある。その体制をつくっていきたい。
学校 関 係 者 評 価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育は、就労している方にとても有意義な子育て支援になっていると思う。

(4) 子育ての支援に関して

	<p>具体的な取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当教員による教育相談を隨時行い、保護者が相談しやすい雰囲気づくりに努める。 ・子ども同士のかかわりをする場の提供と共に、保護者同士も情報交換や悩みを相談する場となるようにする。
--	---

- ・小規模保育事業所との連携を通して3歳児までの育ちや3歳児に必要な支援を学んだり、幼稚園について発信したりする。
- ・教育相談実施についての発信を工夫する。
- ・アンケート「未就園児の教育相談は、地域の子育て支援センターとしての役割を果たしていますか」

(取組結果を検証する) 各種指標

- ・未就園児教育相談の参加状況
- ・参加者の意見
- ・小規模保育事業所との連携状況
- ・未就園児教育相談の発信状況

中間評価

各種指標結果

- ・1回の開催時の参加人数が増加傾向にある。
- ・小規模保育事業所との連携状況については、園庭開放での交流に取り組めた。
- ・未就園児教育相談の発信については、保護者の協力も得てポスター掲示など発信に取り組んだ。

自己評価

分析（成果と課題）

- ・未就園児教育相談クラスでは、子ども同士のかかわりが生まれたり、保護者同士のつながりが広がりつつある。また、未就園児の教育相談については、担当者を中心に行っている。今年度は、就援前の2歳児に向けて園庭で遊ぼうの日やつくって遊ぼうの日などいろいろな経験ができるよう進めているところである。
- ・小規模保育事業所との連携では、園庭開放での交流には取り組めた。また、今までかかわりのなかつた小規模保育施設とも知り合えたが、コロナ禍にあり、かかわりが深められなかった。連携を通して必要な支援を学んだり幼稚園について発信したりすることについては、課題が残った。
- ・未就園児教育相談の発信については、周知につながるようポスターの掲示の場を増やし広げることに取り組めた。

分析を踏まえた取組の改善

- ・後期も、内容の工夫に取り組んでいく。
- ・引き続き、保護者が相談しやすい雰囲気作りや保護者同士も情報交換や悩みを相談する場となるよう取り組んでいきたい。
- ・小規模保育事業所との連携については、後期に取り組んでいきたい。

(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標

- ・未就園児教育相談の参加状況
- ・参加者の意見
- ・小規模保育事業所との連携状況
- ・未就園児教育相談の発信状況

学校関係者評価

学校関係者による意見・支援策

- ・来年の入園希望者が増加したことは、未就園児を対象とした子育て支援の取組成果ではないか。

最終評価

	(中間評価時に設定した) 各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 小規模保育事業所とは、ミニ運動会で交流することができた。 ・ 新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、後半は未就園児の教育相談が実施できない状況となってしまった。 ・ 未就園児の教育相談の発信状況については、後期も保護者と協力し、ポスター掲示に取り組めることができた。また、地域版のおたよりでも発信することができた。
自己評価	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・未就園児の教育相談クラスについては、子どもが楽しみにしていると利用者からの意見が聞かれた。また、担当教員とのつながりが築かれてきたり、保護者同士の情報交換や意見交換をする場となっていましたが、新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況から開催が難しくなり、今年度は開催回数が少なくなってしまった。 ・小規模保育事業所との連携については、今年度は、コロナウイルス感染症の感染拡大状況の中で取り組むことが難しかった。次年度へ課題が残る。 <p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今後もこども同士のかかわりをする場の提供と共に、保護者同士も情報交換や悩みを相談する場となるように取組んでいきたい。 ・年齢の発達にあう経験ができる環境についても見直していきたい。 ・今年度、未就園児の教育相談クラスの内容について見直し、取り組んだ。今後も続けていきたい。
学校関係者評価	<p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土日や長期休業のことで園を入園の選択肢に選べない人もいるだろうが、他機関への周知などの努力も必要だろう。

(5) 地域とのかかわり（社会に開かれた教育課程）に関して

	具体的な取組
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園便り・学級便り・HP の活用による幼稚園教育の発信を行う。 ・学校運営協議会（もえぎティンクル）による幼稚園教育への参画の充実を行う。 ・学校運営協議会（もえぎティンクル）による学校関係者評価を行い、取組の改善策を探っていく。
	<p>(取組結果を検証する) 各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の発信状況 ・学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況 ・学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況 ・アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」

中間評価

	各種指標結果
	<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園教育の発信については、幼稚園だよりや学級だより、ホームページの活用などに取り組んだ。 ・学校運営協議会による幼稚園教育への参画については、後期に実施。 ・アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う・そう思う回答 86%
自	分析 (成果と課題)

自己評価	<ul style="list-style-type: none"> 学級便りを写真も交えた毎月発行に変更し、より子どもの遊びの様子や学び、育ちを保護者に発信できるように取組んだ。 学校運営協議会（もえぎティンクル）による幼稚園参画については、前期は、コロナ禍の状況で難しかったが、後期に向けては取り組んでいる。 学校運営協議会（もえぎティンクル）の存在や活動を保護者に周知していく工夫が必要である。
	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会（もえぎティンクル）の周知方法の工夫が必要である。学校運営協議会（もえぎティンクル）とは、どのような存在なのか、また、学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動時には、学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動だということが、より分かるように配布物に記述することや、取り組んだ活動をもえぎティンクルだよりなどとして作成して、発信するなどの改善を検討していく。
学校関係者評価	<p>(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育の発信状況 学校運営協議会による幼稚園教育への参画状況 学校運営協議会による学校関係者評価からの意見や改善状況 アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」

最終評価

自己評価	<p>(中間評価時に設定した) 各種指標結果</p> <ul style="list-style-type: none"> 幼稚園教育の発信については、幼稚園だよりや学級だより、ホームページの活用などに取り組んだ。 学校運営協議会については、10月に開催でき、意見をいただくことができたが、コロナ禍で学校運営協議会の方による幼稚園教育の参画については、実施できたものもあるが、計画はしていたが実施できなかつたものもある。また、年度末最終の学校運営協議会については開催できず、紙面での報告となった。 アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」大変そう思う・そう思う回答 93%
	<p>分析 (成果と課題), 重点目標の達成状況, 次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会の方による幼稚園教育の参画については、感染症対策をとりながら、絵本の読み聞かせやお茶会体験については、一部実施ができた。しかし、計画をたてていたが新型コロナウイルス感染症の感染拡大状況により、実施が難しく実施できなかったものもある。 アンケート「学校運営協議会（もえぎティンクル）の活動は、幼稚園の経営を豊かにしていますか」の後期評価結果では、前期より上昇している結果が見られた。引き続き、学校運営協議会（もえぎティンクル）の取組を発信し、周知していきたい。
学校関係者	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会（もえぎティンクル）の存在や活動、取組を今後も発信していきたい。

評価	
----	--

(5) 教職員の働き方改革について

重点目標	<ul style="list-style-type: none"> 優先順位をつけて業務を行い、組織的に工夫する。
具体的な取組	<ul style="list-style-type: none"> 働き方改革について、研修の機会をもち、組織的に工夫・実践する。
(取組結果を検証する) 各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 教職員へのアンケート実施 組織的な工夫の推進状況 ノー残業デーの実施状況

中間評価

自己評価	各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> 教職員へのアンケートを実施した。 組織的な工夫については、教職員からの意見も聞き取りできるところから実践している状況である。 ノー残業デーの意識については、定着してきている。実践に向かっている状況である。
	分析（成果と課題）	<ul style="list-style-type: none"> 教職員アンケートの実施により、教職員の働き方改革や勤務時間への意識が向上した。 組織的な工夫については、毎朝の職員朝礼の見直しを行うことができた。まだまだ課題は残るもの、できることから実践していくこうと意識に変化が見られている。 ノー残業デーの実施については、できる日や難しい日もあるが、勤務時間に対する教職員の意識は以前より向上している。定着に向けてあと一歩進めていきたい。
	分析を踏まえた取組の改善	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な工夫については、定期的に教職員からの意見を聞き取り、できることから実践していきたい。 ノー残業デーの定着に向け取り組む。
学校関係者評価	(最終評価に向けた) 取組の改善を検証する各種指標	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な工夫の推進状況 ノー残業デーの実施状況
学校関係者による意見・支援策		<ul style="list-style-type: none"> ICT をうまく活用して、業務を軽減し働き方改革につなげてほしい。

最終評価

(中間評価時に設定した) 各種指標結果	<ul style="list-style-type: none"> ノー残業デーの実施については、後期は課題が残った。日々の勤務時間への意識については、前期と同様教職員間で共有している。 組織的な工夫については、会議の精選に取り組んだり、終了時間を決めて行うことは取り組めた。
---------------------	---

自己評価	<p>分析（成果と課題）、重点目標の達成状況、次年度の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の活用については、徐々に取り組んでいるところであり、今後は業務の軽減につながるよう効果的に利用していきたい。 ・ノー残業デーの実施については、課題が残ったが、日々の勤務時間に対する意識については、一人一人の意識が高まっているので、長時間勤務の減少につながっている。 ・今後も会議の精選や会議の内容、時間設定など組織的に工夫していく。
学校関係者評価	<p>分析を踏まえた取組の改善</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ICT 機器の活用については、具体的な利用方法について検討し、効果的な業務の軽減につなげていく。 <p>学校関係者による意見・支援策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教員という仕事は、プロフェッショナルな仕事。子育てしていても仕事を続けていけるような、周囲も意識を変えて、働き方改革を進めていかなくてはいけないと思う。